

## 川崎医療短期大学紀要投稿規定

1. 名 称 和文名は川崎医療短期大学紀要とし、英文名は BULLETIN OF KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS とする。
2. 発 行 年1回12月とする。
3. 投稿資格者 1) 筆頭著者は川崎医療短期大学の専任教職員又は元専任教職員に限る。  
2) 編集委員会から執筆を依頼された者は上記の限りでない。
4. 投稿の内容 投稿論文は未発表のものとし、和文又は英文とする。
5. 投稿の予約 投稿希望者は5月末までに「投稿希望用紙」に所定事項を記入の上、各学科編集委員を通じて編集委員長へ提出する。
6. 倫理的配慮 投稿論文は、生命倫理に十分な配慮がなされたもの、個人情報保護のために必要な処置を講じたもの、利益相反の有無を公開したものとする。
7. 掲 載 料 1) 刷り上がり6頁以内は無料とし、超過分については著者がその実費を負担する。  
2) 色刷りの場合は、著者がその実費を負担する。  
3) 掲載論文の別刷は50部まで無料とし、超過分については著者が負担する。
8. 原稿の提出 提出期日は7月末とし、指定の「投稿カード」に必要事項を記入の上、原稿と共に各学科の編集委員を通じて編集委員長へ提出する。原稿の受理日は、それが編集委員会で採択された日とする。
9. 編 集 1) 投稿された論文の採否は編集委員会で決定する。  
2) 提出された原稿について、加除・訂正を助言することがある。  
3) 著者による校正は再校までとし、その後は責任校了とする。校正時における内容の大幅な変更や追加は認められない。
10. 原稿の返却 著者から提出された原稿並びに図、表、写真などは、紀要発行後返却する。
11. 著 作 権 掲載された論文の著作権は川崎医療短期大学に帰属する。
12. 電子媒体による公開 本紀要の論文は「NII 論文情報ナビゲータ：CiNii」にデータ登録され、<http://ci.nii.ac.jp/>にて公開される。
13. そ の 他 この規定の改訂は、編集委員会、教授会、運営委員会の議を経て学長が決定する。

### 附 則

この規定は、平成8年1月1日から施行する。

### 附 則

この規定は、平成10年7月16日から施行する。

### 附 則

この規定は、平成25年4月1日から施行する。

### 附 則

この規定は、平成26年4月1日から施行する。

### 附 則

この規定は、平成27年4月1日から施行する。

## 執筆要領

### 1. 原稿の体裁および内容

- 1) 和文：原稿は、手書き、ワープロ・ソフトのいずれでもよい。手書きの場合は原稿用紙を使用し、黒色のペン字で楷書とする。ワープロ・ソフトを使用する場合には、A4版の用紙を使い、1行40文字20行の体裁で仕上げる。
- 2) 英文：原稿はA4版の用紙を使い、ダブルスペースでタイプする。
- 3) なお、ワープロ・ソフトを使用した場合は、和文、英文とも、プリントアウトした原稿とともに、USBメモリ等の記録メディア（表に筆頭者の氏名・機種・ソフト名を明記のこと）を同時に提出すること。データの形式は、できるかぎりテキスト形式で提出する。
- 4) 原稿は、原則として刷り上がり6頁以内とする。和文の場合は文章のみで11,000文字程度。
- 5) 文献の数は必要最小限にとどめる。
- 6) 原稿添付の図、表、写真の大きさは台紙を含めて40×30cm以内とする。

### 2. 表題等（第1ページに記載）

以下の例に従って、論文の表題、著者名、所属学科（機関）名称、受理年月日（実際の月日は編集委員会で採択後記入するので、空けておく）並びにキーワード、ランニングタイトル（ランニングヘッド）を記載する。著者が複数で、所属学科（機関）が異なる場合は、それぞれの所属を番号によって区別し、筆頭著者を1としてすべての著者に番号を付ける。

（例）

表 題：医学用語の構成についての研究  
氏 名：川崎理子<sup>1</sup>、松島久代<sup>2</sup>、山田花子<sup>2</sup>、松島太郎<sup>3</sup>  
所 属：<sup>1</sup>川崎医療短期大学 一般教養  
<sup>2</sup>川崎医療短期大学 医療秘書科  
<sup>3</sup>川崎医科大学 内科

受 理 年 月 日：（空けておく）

英文タイトル：A Review of Word-Building System for Medical Terminology

英 文 氏 名：Noriko KAWASAKI<sup>1</sup>, Hisayo MATSUSHIMA<sup>2</sup>, Hanako YAMADA<sup>2</sup> and Taro MATSUSHIMA<sup>3</sup>

英 文 所 属：<sup>1</sup>Department of General Education, Kawasaki College of Allied Health Professions

<sup>2</sup>Department of Medical Secretarial Studies, Kawasaki College of Allied Health Professions

<sup>3</sup>Department of Internal Medicine, Kawasaki Medical School

キ ー ワ ー ド：語幹、医学用語、接頭辞（5語以内とする）

ランニングタイトル：医学用語の構成（ランニングタイトルは簡潔に；24字以内とする。）

### 3. 概要（第2ページに記載）

論文が和文の場合は和文で400字以内、英文の場合は英文で250語以内にまとめる。この概要は、本文と切り離しても内容が分かるように書くこと。

### 4. 本文（第3ページ以降）

- 1) 見出しは、以下のようにするを勧める。
  1. 緒言
  2. 研究方法（材料・方法）
  3. 結果
  4. 考察
  5. 謝辞（必要な場合に記す。また必要があれば、学会や研究会で口頭発表した実績などは、ここに入れる）
  6. 文献
- 2) 本文に節を設ける場合、(1), (2)……をつけて節を示す。節の見出しは簡潔にする。
- 3) 本文は原則として常用漢字、新仮名遣いとする。外国人名や専門的な術語は、学会などで一般に用いられているものを使用し、原綴り又はカタカナ書きとする。
- 4) 略語を用いる場合は、初出のときに完全な用語と（ ）内に略語を書き、専門外の読者にも分かるようにする。
- 5) 度量衡の単位は以下のようにする。
  - a) 重さ：kg, g, mg,  $\mu$ g, ng
  - b) 長さ：m, cm, mm,  $\mu$ m, nm

c) 容量: L, dL, mL,  $\mu$ L

d) 濃度: g/L, g/dL, mg/dL

6) 日本語原稿の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし、漢字と結合して名称を表すものは、漢字とする。

(例) 1つ, 2〜3時間, 数十個, 一例

7) 文字の指定については、原稿に赤で次のように指示する。

a) 斜体(イタリック体)文字には、下に\_\_\_\_\_ (直線)をつける。

b) 太字体(ゴシック体)文字には、下に~~~~~ (波線)をつける。

## 5. 図, 表, 写真

1) 図・表は、そのまま印刷できる鮮明なものを1図1表ずつ別紙に作成し、提出する。

2) 図表の右上余白に、筆頭著者と図または表の番号を図1, 図2……, あるいは表1, 表2……のように記し、刷り上がりのサイズを指定する(原寸, 1/2, 1/4など)。図, 表は本文とは別に、原稿の末尾に順番にまとめる。

3) 写真については、手札以上のサイズで鮮明なものであること、また、原稿用紙と同じ大きさで厚めの台紙に貼って提出する。カラー写真の場合は、刷り上がりの色調や費用について、事前に編集委員会に問い合わせをすることが望ましい。

4) 図, 表の本文への挿入箇所は、原稿本文の右欄外に、図または表の番号を鉛筆で書き込む。

## 6. 文献

1) 文献は本論文に関係あるものに限り、最小限にとどめる。引用文献については、本文中に引用番号を記載し、その番号順にならべる。

2) 記載は以下の例に従うこと

著者氏名(全員を書く)、論文題目、雑誌名(類似の誌名のあるときは、発行地)、巻、頁(初めの頁〜終りの頁)、西暦年号の順に書く。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、版、発行地: 発行所名、頁、年次を記載する。欧文雑誌名の省略は原則として Index Medicus に従う。

(例)

雑誌

1) Ford LE, Huxley AF and Simmons RM: Tension transients during the rise of tetanic tension in frog muscle fibres, J. Physiol. 372: 595—609, 1986.

2) 松島次郎: 川崎医療短期大学におけるこれからの教育, 川崎医療短期大学紀要 7: 51—64, 1991.

単行本

1) Brock S and Krieger HP: The Basis of Clinical Neurology, 8th ed, Baltimore: Williams and Wilkins, pp. 53—85, 1963.

2) 小川耕三: 脳の解剖学, 東京: 南山堂, pp. 94—130, 1965.

3) 白居敏仁: 病理学的検査法, 「新しい毒性試験と安全性の評価」白須泰彦, 松岡 理編, 第2版, 東京: ソフトサイエンス社, pp. 231—280, 1978.

3) 引用文献の場合、本文中における文献引用は、次のように記載する。

例: 東村ら<sup>3)</sup>は……

……が指摘されている<sup>2,3)</sup>。また、北村ら<sup>4~6)</sup>によると……。

## 7. 注

1) 注が必要な場合は、本文中に注番号を記載し、その番号順に注を記載することができる。

2) 注は、文献の前に記載する。

3) 注は、文献の記載と区別するために、以下のように記載する。

(例)

松島は、専門職養成のミニマム・エッセンシャルズ<sup>注1)</sup>について「知識・技能・態度のトータルな育成が不可欠である。」<sup>1)</sup>と主張した。

### 注

1) ここでいうミニマム・エッセンシャルズは、学習者に教えるべき最低限の教育内容を意味する教育学用語をさす。

### 文 献

1) 松島次郎: 川崎医療短期大学におけるこれからの教育, 川崎医療短期大学紀要 7: 51—64, 1991.

## 8. その他

論文が和文の場合、250語以内の英文の概要(summary)を付けてもよい。